

No. J2313

内モンゴルにおけるチベット仏教の伝統と変容
—転生ラマの認定をめぐる政治人類学的研究

総合研究大学院大学 先端学術院人類文化研究コース研究生
WUNIERSAIHAN (ウニルサイハン)

本研究は、内モンゴルにおける仏教再活性化時期の転生ラマ（活仏）の役割に焦点を当てた。助成期間中は、中国内モンゴル自治区で、文献およびフィールド調査を実施した。そこで、1) 転生ラマと一般ラマ僧たちにインタビューを行い 2) 転生ラマの認定プロセスについて聞き取り調査及び文献資料の収集、整理を行い 3) 信徒たちの東チベットへの巡礼に同行し、参与観察を行った。

1) 転生ラマと一般ラマ僧たちへのインタビュー

中国政府発行の「活仏証明書」を持つ転生ラマ3人と、持たない転生ラマ5人に面会し、インタビューを行った。そこで、政府のからの許可を得ていない転生ラマは、「転生ラマ」として活動することが禁じられているが、地元では深く信仰されていることがわかった。また、「活仏証明書」を持つ転生ラマは、僧院長で、地方仏教協会などの会長を務めるが、その影響力は盟旗（行政区）内に止まる。内モンゴルには、もはや広く知られた有力な転生ラマはいないことが明らかになった。

2) 転生ラマの認定プロセスについて

北京や内モンゴル自治区の図書館や档案馆、各地の僧院などを訪問し、転生ラマに関する史料や内部資料を閲覧した。調査の過程で、「活仏証明証」を持つ転生ラマの没後、僧院は「合法的に」次の転生者を探そうとしたが、旗の宗教局に認めてもらえなかった、等の実情を聴取した。さらに、いくつかの僧院は、たとえ政府が転生者の探索に同意したとしても、転生ラマを教育することは非常に困難であると訴えていた。つまり、文化大革命以来、内モンゴルのおよそすべての僧院は、転生ラマを養成する能力を失ってしまったのである。

3) 信徒たちの東チベットへの巡礼

こうした状況下、転生ラマへの信仰が内モンゴルの人々をチベットへと導いている。本調査では、モンゴル人の東チベットへの巡礼の方法や性格、チベットの転生ラマに対する布施について、参与観察を実施した。今後は、現代におけるチベットとモンゴルの仏教関係に焦点を当てて、内モンゴルの仏教再活性化過程に関する研究を続けていきたい。